

第3章

重点プロジェクトの進捗状況

個別目標の中から、他の施策より優先的に取り組むことが必要な施策や着実な進展が求められている事項について設定した「重点プロジェクト」の進捗状況を報告します。

重点 プロジェクト 1

里山の保全・活用に向けたしくみづくり

中心となる担当課：環境保全課、農政課

印西市の豊かな自然は、多種多様な生き物が生育・生息し、自然の営みと人々の生活が調和したかけがえのない貴重な環境です。

農家や地元の人々の暮らしの中で育まれてきた樹林地、農地、水辺などが共存する里山環境を守るために、市では市民や NPO 団体との協働のもと、里山の維持管理活動や遊休農地の解消、市民が自然とのふれあう場を創出する取組みを重点プロジェクトとして進めてきました。

平成 20～24 年度の取組み・評価

草深の森維持管理作業

地権者や市民、NPO 団体などの協力のもと、草深の森の維持管理作業を継続的に実施してきました。5 年間で延べ 215 名のご参加いただき、竹林の伐採や枯れ木の除去を行ったほか、草深の森の探索を行い、作業を通じて地権者や草深の森に関心をもつ人々から広く様々なご意見をいただくことができました。また、平成 23 年度には全面積を対象に環境整備を行うなど、「市民の森」の充実を図りました。



草深の森

農業を振興するための取組み

農業従事希望者に基礎的な農業知識を習得させるための農業研修を毎年度実施しており、5 年間で 8 回開催し、延べ 75 名にご参加いただきました。また、農業版ハローワークへの求職者登録も推進し、5 年間で 50 名の登録がありました。

地域の農業振興のため、「印西市農産物ブランド化推進補助金」による農産物のブランド化や、印西市地産地消計画の策定等を進めてきました。また、平成 24 年 1 月には地産地消シンポジウムを開催し、多くの市民への啓発活動を実施したほか、大規模農家などと連携し、学校給食への市内産農産物の使用量拡大のため、栽培品目や加工などについて検討を行いました。さらに、「農業振興地域整備計画」の推進を通じて、農地の有効利用や保全を図るとともに、「遊休農地再生対策協議会」によって遊休農地の再生対策が進められ、5 年間で約 7ha の耕作放棄地が解消されました。

里山環境の普及・啓発

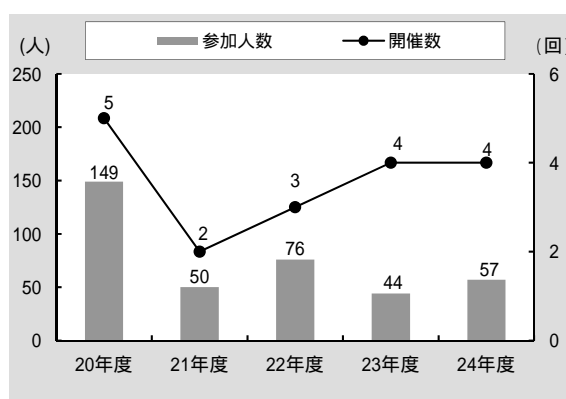
印西市に残る豊かな自然にふれあう機会を提供する「印西自然探検隊」を継続的に実施し、5年間で18回開催しました。毎年開催場所を工夫することで、浦部川周辺や草深の森の自然環境を多くの市民に紹介することができ、環境保全意識の向上に寄与することができました。

また、市民参加型の生物調査として、「生物モニタリング調査」（平成15～20年度）及び「生きもの調べこどもレポーター」（平成24年度）を実施し、調査を通じて身近な動植物とふれあい、市の自然環境への関心や理解を深める機会を提供することができました。



印西自然探検隊の様子

《自然探検隊の開催状況の推移》



《平成24年度に広報いんざいで告知した主な里山関連イベント》

発行日	イベント
4/1号	➤ さわやか散策会
5/1号	➤ 里山散策会 ➤ 日本の里山100選 結縁寺を歩くウォーク
6/1号	➤ いんざい環境フェスタ ➤ 里山散策会
6/15号	➤ 青少年ふれあいキャンプ
7/1号	➤ 自然探検隊(草深の森) ➤ 里山散策会
7/15号	➤ 自然探検隊(浦部川周辺)
8/1号	➤ 自然を感じる！わくわくデーキャンプ！
8/15号	➤ 原っぱの会自然観察会
9/1号	➤ 里山散策会

発行日	イベント
9/15号	➤ そうふけっばらのキツネに会う里山散策シリーズ
10/1号	➤ コスモス・里山まつり ➤ 自然探検隊 ➤ 里山散策会
10/15号	➤ 自然探検隊
11/1号	➤ ふるさと印西発見 ➤ 里山散策会 ➤ 木下街道膝栗毛 ➤ 手賀沼流域フォーラム
12/1号	➤ 里山散策とミニ講演会
1/1号	➤ 散策会「冬だからこそ」
2/1号	➤ 里山散策会
3/1号	➤ 里山散策会

重点プロジェクト 2 地球温暖化対策の推進

中心となる担当課：環境保全課

地球温暖化の主な原因である二酸化炭素（CO₂）の排出量を削減するためには市民・事業者・市が自主的に CO₂ 削減に努める必要があります。

市の事務・事業において、環境に配慮する行動を率先して実施する「市内エコプラン」のほか、市民・事業者が自らの生活や事業活動を見直し、まちをあげて地球温暖化対策を推進するための取組みを進めてきました。

平成 20～24 年度の取組み・評価

市内エコプランの推進

市では、事務事業に伴う温室効果ガス排出量の削減目標（平成 18 年度レベルより 5% 削減）達成を目指して、各課における環境推進主任の選任や、市職員への自己行動調査を通じた環境配慮行動の周知など、市内エコプランの継続的推進に努めてきました。

平成 24 年度の温室効果ガス年間総排出量（二酸化炭素換算）は、前年度より 10.5% 多い 7,517,760 kg-CO₂ となりました。今後は、新市に対応した新しい目標値を検討し、さらなる対策推進に努める必要があります。

（市内エコプランについて、詳しくは第 4 章をご参照ください）

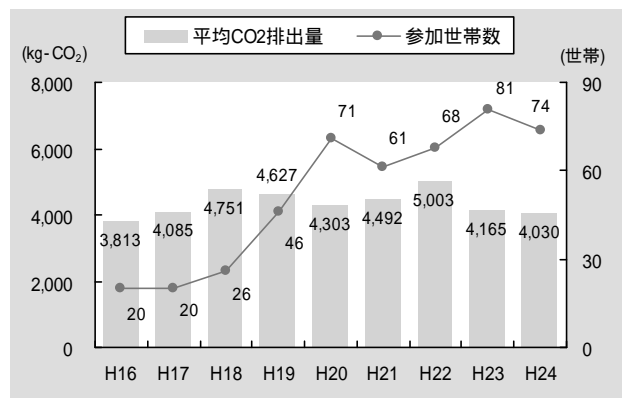
環境家計簿の普及促進

市では、家庭における地球温暖化対策の一環として、環境家計簿の普及促進に努めており、平成 24 年度は広報やホームページで参加を呼びかけ、環境フェスタなどの環境イベント会場でも環境推進市民会議委員が中心となって PR 活動を行いました。

環境家計簿の提出数は、平成 16 年度の 20 世帯から徐々に増加し、平成 24 年度には 74 世帯から報告をいただくことができました。

なお、環境家計簿を提出していただいたみなさんには、年間の CO₂ 排出量や光熱費、環境と家計にやさしい生活のヒントを掲載したエコ診断表とエコバッグを配布しています。

〔平均 CO₂ 排出量と参加世帯数の推移〕



再生可能エネルギーの活用

市では、地球温暖化防止対策として、ご家庭に太陽光発電システムや太陽熱利用温水器を設置する場合に設置費用の一部を助成しており、広報やホームページでの普及啓発を継続的に実施してきました。その結果、平成24年度までの補助実績は太陽光発電システム 766 基、太陽熱利用温水器 39 基となり、家庭における再生可能エネルギーの活用にご寄与することができました。

また、公共施設においても太陽光発電システムの導入を推進しており、平成15年度に初めて大森小学校に設置して以降、平成20年度には市庁舎、平成21年度には総合体育館（松山下公園）、平成22年度には内野小学校に設置しました。



内野小学校屋上の
太陽光発電パネル



松山下公園総合体育館の
太陽光発電パネル

コラム 補助金を活用して省エネ設備を導入しましょう

印西市では、地球温暖化防止、家庭におけるエネルギーの安定確保及びエネルギー利用の効率化・最適化を図るため、太陽光発電システムや太陽熱利用温水器を設置する場合に設置費用の一部を助成しています。

平成25年10月から、エネファーム等の住宅用省エネルギー設備4項目が新たな補助対象に追加されました。

家庭で上手に、賢くエネルギーを使う暮らしにお役立てください。

補助金額

- ・ 太陽光発電システム
 - 戸建住宅…1kWあたり4万円（上限16万円）
 - 集合住宅…1kWあたり5万円（上限50万円）
- ・ 太陽熱利用温水器…上限3万円
- ・ 家庭用燃料電池システム（エネファーム）…上限10万円
- ・ 定置用リチウムイオン蓄電池システム…上限10万円
- ・ エネルギー管理システム（HEMS）…上限1万円
- ・ 電気自動車充電設備…上限5万円



➤ 現在、国でも太陽光発電システムや燃料電池等の設置にかかる補助制度を設けています。

【問い合わせ先】

環境保全課 電話：0476-42-5111 内線 364、365

印西市ホームページ (<http://www.city.inzai.lg.jp/>)

トップページより、「暮らしの情報」「ごみ・環境・ペット」「省エネ・節電・太陽光」を選択

重点3 マイバッグの利用促進

中心となる担当課：クリーン推進課

地域一体となつてごみの排出を抑制するためには、市民・事業者のごみ減量意識が重要です。

市では、使い捨て文化を象徴する「レジ袋」から、マイバックへの利用転換を促進するため、普及啓発などの取組みを推進してきました。このような取組みは、ごみの排出抑制や省資源化に繋がるだけでなく、ごみの分別に気を付けるようになったり、その他の環境問題にも関心を持つようになるなど、環境配慮について考えるきっかけとなることが期待されます。

平成 20～24 年度取組み・評価

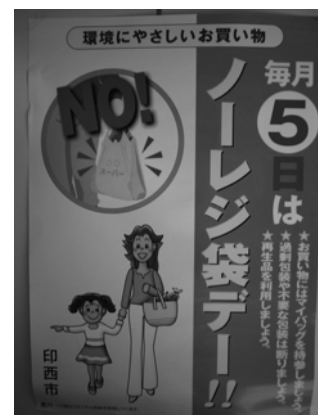
市では、レジ袋の使用を削減し、マイバッグの利用を促進するため、毎月5日をノーレジ袋デーとして、公共施設や店頭でPR活動を行ったほか、マイバッグ普及促進協力店制度を設け、マイバッグの利用を積極的に推進している店舗を普及促進協力店として登録する取組みを実施してきました。(平成24年度は7店舗を登録。)

また、市では、オリジナルのエコバッグを製作しており、環境家計簿提出世帯への配布や、イベント等における配布を通じて普及を図っています。平成24年度にはいんざい君入りのエコバッグを500枚作成し、公民館での「ごみの分別が大事店」や産業まつりなどで配布しました。

なお、平成23年度に市内のスーパーマーケット5店舗で実施したマイバッグ普及状況調査では、マイバッグ利用率25%、レジ袋辞退率30%と、全国平均(レジ袋辞退率31.03% 平成23年3月 日本チェーンストア協会まとめ)と同程度に普及していることが分かりました。



印西市エコバッグ(マイバッグ)



ノーレジ袋デー普及ポスター